

平成20年度質の高い大学教育推進プログラム審査結果表【選定】

機 関 名	明治大学				
取 組 名 称	地域・産学連携による自主・自立型実践教育				
取組学部等	商学部				
申 請 区 分	教育方法の工夫改善を主とする取組				
整 理 番 号	A21147	申 請 の 形 態	単 独	取 組 期 間	3 年
申請の分類	専門基礎	キャリア	地域活性化		
キーワード	圧倒的多数の中間層、知の融合、学外ネットワーク、学内ベンチャー連携、自主・自立型人材育成				

<選定理由>

本取組は、地域・産学連携によって自主・自立型の人材育成を図るという視点から、学生たちのひとりひとりの能力を伸ばすことをめざして取組んだプログラムとして高く評価できる。特に、圧倒的多数を占める沈黙する学生層を、教育の「見える化」によって成長させようとすることは、この取組の目的を達成することについて意義を有するといえる。また、大学がこの取組の意義を高く位置づけて、3つのテーマ実践科目を設置し、沈黙しがちな学生たちが思考と表現力を取り戻すカリキュラムを積極的に整備しており、さらには、報告プレゼンテーションやデジタルコンテンツ化のように具体的な計画を立てていることなど、取組の実現性についても高く評価できる。

ただし、ゼミ単位での単発的な地域連携活動に終わってしまう可能性があることや、成績評価があいまいなままとなる恐れがあることなどについては、本取組の有効性にかかわる問題なので、十分な配慮が必要になる。取組実施に当たっては、このことに対応しつつ、着実に成果を上げることを期待する。

取組の概要

わが国の教育現場で受動的な学習姿勢を見せる学生を目にするのは珍しいことではない。しかし、こうした学習に対する受動性は、教育する側の論理に学生たちが積極的に適応していった結果であるといえるかもしれない。学生たちは、講義形式の一方的な知識伝達という教育の場の中で学習効率をあげるため、「覚えること」に専念し「考えること」と「声をあげること」を放棄した「沈黙する学生」たちへと変っていったのである。そして今日の大学では、この「沈黙する学生」たちが圧倒的多数の中間層を形成している。

本取組は、学理実際の知の融合を通じて、こうした学生たちに社会で求められている「考える力」と「声をあげる力」を取り戻し、「沈黙する学生」を「『個』を持った存在」へと「見える化」していくための自主・自立型人材育成プログラムである。他者から「見える」人材であり、かつ社会が「見える」人材であるためには、問題発見力、課題解決・企画構想力、コミュニケーション力という3種の能力の養成が必要である。そのため、本取組では、地域・産学連携による学外ネットワークをフル活用して3種のテーマ実践科目（担当教員の提示するテーマに関して独自の課題解決プロセスを計画・実行する特別テーマ実践科目、テーマ設定の段階から自主・自立的に取り組んでいく自主テーマ実践科目、実在する学外組織から提示された実践的な依頼テーマに対して独自の取組を企画し課題解決を図っていく受託テーマ実践科目）を設置・展開し、実践的な教育の場と社会からの評価の視線を提供していく。また、学生の「見える化」の基盤のひとつとして学習成果の「見える化」に取り組み、個々の学生がテーマ実践科目を通じて練り上げてきた「見える化」構想を学内ベンチャー連携を通じてデジタルコンテンツ化していく。

商学部は、「『個』を強くする大学」を目指す本学の教育理念を踏まえて、新時代を見据えた一連の教育改革を進めてきたが、本取組はその成果を集大成したきわめて実践的な人材育成プログラムである。

